KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Inches
Centimetres
書誌学概論
2207

和歌一字抄 上

歌

天水流門朔暮寒北人獨傀儡意前

地湖浴都軒昨夜霽晴艮客光塗上烏巾岸後

山海寺庭曉明方巽交若漁火中遠

麓泊村砌曙晴東坤主隱士樵夫樵路近

路岸家宴屋宿亭奄店室垣朝温暖西乾伴遊子高客内長

驛渕隣閏晝涼冷南中誰遊女淨侶外短

門へ利4 特 2.207 巻 1-2

動　有　高　始　昇　山野　隠晴　左右　浅深

静　無　低　浴　陰　都鄙　光艸　貴賤　是非

見　同　古舊　浅　送　東西　倫素　憂喜　色香

聞　別　新　深　迎　南北　遅速　視聽　孤白

多　出　遅　来　親　晝夜　往反　親疎　管絃

少　入　早　帰　蹤　朝暮　高低　遠近

天象

天　拾八

海ハ三万里の水ハ清ク人凡
沖ハ波ハ立ツ風ハ吹ク

道遠ク波荒ク

續撰吟一　雲ハ立ツ月ハ隠ル

同

春の花秋の月ハ雲ハ立ツ

後拾遺ハ春ハ花秋ハ月

天ハ水ハ清ク月ハ澄ム

同

春風ハ雲ハ立ツ

後撰吟一　春風ハ雲ハ立ツ

同

春風ハ雲ハ立ツ

春風ハ雲ハ立ツ

同

春風ハ雲ハ立ツ

春天象

春風ハ雲ハ立ツ

夏天象

夏ハ月ハ明ク

秋天象

秋ハ月ハ明ク

立春人　春天

亀山院　文永　ちるあをしらくもの　法皇院御歌
こゝろもみさを立たるなみの　藤原院御歌
かきりなきちゝのしたはなる　同
まもりていけるなかるゝ　同
ちるぬれはなてきこゝろ　同
ちるあをしらくもの　道蓮院前内大臣
うつの山のこゝろの　同

晴天帰鴈

暮天鴈　千　ゆくかりの　花沙弥
ゆくかりの山のみるこゝろ　花なく
満千三　人なれてこゝろ　藤原
頼後　ゆくかりの　京極道前内大臣
頼後　ゆくかりの　白河院御歌

暮天鴈鴈　頼九四　ちるこゝろ　太上天皇
山のこゝろ　法皇
ゆくかりの　後伏見院
暮天杭鴈　ゆくかりの　藤原院御歌

遠天杭鴈　ゆくかりの　同
ゆくかりの　同
ゆくかりの　東遊院前内大臣
ゆくかりの　大炊御門
ゆくかりの　同

天高き山遠　新千十八　ちるこゝろ　新撰十八　ちるこゝろ　都合院前内大臣
ちるこゝろ　同
ちるこゝろ　同
ちるこゝろ　同

社頃天　春日連日連歌　一　ちるこゝろ　新千十　ちるこゝろ　新千十七　ちるこゝろ　同
北天雁来春　秋夜長し　新後拾遺十七　秋の夜の　新千十七　秋の夜の　大江千里
天韻　秋夜長し　秋の夜の　新千十七　秋の夜の　前内大臣
東感思在秋　新千十七　ちるこゝろ　新千十七　ちるこゝろ　同
鳥直鳴秋夜雪　玉葉十六　ちるこゝろ　新千十六　ちるこゝろ　二条院讃岐

空山雁　山さとのこのしたやみぬれんぬるるまを松の夏月　順徳院
空山月　わかるまの雲ゆきはふれるさえ山の月　同

地儀

二

地

春地儀

みちのくの山ぢの雪のとけゆくに　長慶院
ゆきはけぬ神のこもれる山ぢかな　大炊大夫
すぎかたの山をもつてもしるしぬ　俊成三雅
けふもすこのほかるうまつ少の白河　同
後柏原院

麦地儀

落葉蘭地

麦ぬきていそしきひとのまるのの山ぢのみ
ゆくはさそふあらしの山ぢかな　遍照院
こもるとも桜はさくらの山ぢかな　後鳥羽院
称名院内大臣

山

三

山

初句　大江成のたのもしかるべし　麦秋人数春
時雨　しぐるるこるこるなれとるれたるくれるつ　皇后宮
初句　十七　なるこの行ろてさそふるとんるたん　後鳥羽院
ゆくもれたれて家のうるるるるるるるるる　藤三条
いるるるるるるるるるるるるるるるるるる　後鳥羽院
はるるるるるるるるるるるるるるるるるる　遍照院

秋山

山霞

山花

春山朝

山女郎花

月出山

同

藤原敦基卿

後相原院

後鳥羽院下野

後嵯峨院

後伏見院

後宇多院

後深草院

後醍醍天皇

後醍醍天皇

後醍醍天皇

鷲峰寺

鷲庵

鷲住

山ぶしのこしらへかまへ鷲すハ法華にあ[illegible]

なるきよのそこのきよ[illegible]

よるの月よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

同詠花

春ごとの山さくらばの雪ふかみ
宮柱よりのこれわたる飛鳥山
ゆくすえの花の名残
同

同詠郭公

ほととぎす
なくあさぼらけ
ちかのよりそれ神路の
ちかのよりそれ神路の

源俊頼朝臣

同詠鹿

ちかのよりそれ神路の

順徳院

同詠月

金四
清澄のそらにうかぶ
ちかのよりそれ神路の

兼昌

同詠冬月

新拾六
清澄にうかぶ月
ちかのよりそれ神路の

普光園院入道前内大臣

同詠雪

千六
雪つもるかぶすくしたりぬ
ちかのよりそれ神路の

大僧都

同詠霜

千六
かるまくに神路の山
雪のくれ
雪のくれ

内大臣

同詠時雨

たかのくれ
たかのくれ

北門主殿

同詠梅

たかのくれ
たかのくれ

後二條院

同詠春雨

春雨
春雨

遠見院

同詠春風

千二
春風
春風

遠見院

同詠霞

たかのくれ
たかのくれ

殿下

行路長草

行路雲火 一字
行路久立
行路萩
行路石楠 六 鏡ハ
行路石楠 五 鏡古

うつりかはるまつの雲ふかみ
久立み神路のうれ
神のうちたちかはるぬ萩
ほこのうちの神路の

薩摩侍従

行路又山路のまれたるふ
むかしたちかはるまつ
むかしたちかはるまつ

新拾 元人

うつりかはるまつ

遠信上人

行路神宮 八

ちかの板屋の
すかる板屋
ちかの板屋

遠信家

行路板屋

行路桜香爾

山路霞

行路朝

行路長草

行路雲火 一字
行路久立
行路萩
行路石楠 六 鏡ハ
行路石楠 五 鏡古

行路又山路のまれたるふ
むかしたちかはるまつ
むかしたちかはるまつ

新拾 元人

うつりかはるまつ

行路神宮 八

ちかの板屋の
すかる板屋
ちかの板屋

行路板屋

行路桜香爾

山路霞

行路朝

うつりかはるまつの雲ふかみ
久立み神路のうれ
神のうちたちかはるぬ萩
ほこのうちの神路の

薩摩侍従

殿下

雅経卿

遠信上人

遠信家

遠信卿

遠信卿

遠信卿

後撰院
後撰原院
藤原実方
藤原実方朝臣
藤原信孝朝臣
後撰院
藤原実方
藤原実方
藤原信孝朝臣
藤原実方
藤原実方朝臣
藤原実方
藤原実方朝臣
藤原実方
藤原実方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水力寒氣

水力車

水辺樹石

水路交叉

水落竹

水路氷

流水

串流水

沼水

湖

湖

湖上朝霧

湖畔梅花

湖花

湖辺郭公

湖月

湖上月

湖上月

湖上暁雁

湖水

湖千鳥

湖上水鳥

湖雪

湖上春

海

海山

海

海

海

海月　四月

さくらの色みどりにかはりてはるのこころ

海月花

海月春

海月郭公

海月上旬

海月早苗

海月五月雨

海月蛍

海月上蛍

海月涼

海月月

海月照月

海月上弦月

海月盡日

海月立夏

海月冬

海月冬夕

海月冬朝

あるこの夜の月をとりて訪ひて

あるたけのこころをつくして

海の上の月のさしいでるとき

海のたうつる月かなしき

いにしへの山ぶねそのゆくへ

入り日すでに沒して月の出でぬ

海つくりこの言ひうしなはれて

海つくりこの言ひうしなはれて

海の月

うらぶれわけ入りて

うらぶれよりの海の月

海の冬夕

海の冬朝

とまりする夜の夢をかなしく

伯

板伯五月雨　五月雨のそらにこそ神わけてあすは伊勢の国へ出立

板伯秋来　秋来ぬと伊勢の国へ出立やこんせよの国を秋すゝき

夜伯康　こゑと伊勢の国へ出立やこんせよの国を秋すゝき

曰　うきねする伊勢の海人の苫ぶきの苫をあらみ秋の風

曰　あらしにてありけるかたきあれにうちたる梅庵の夏

曰　こゑと伊勢みこきわろ上風の庵の夏

夜伯康　やよいにもしあけの松に風ふきて庵の夏

板伯少康　みしもしろ月の月ぬ明ぬ伊勢

伯月　さしたの名の松とたてもよ神のたに

十　神のたにわくるなるまつる月こそ松のこゑ

八　まつこゑうきねの庵に伊勢りもるまつる月の秋

板伯侍月　わつ松しあしのうのほとをくかつりて伊勢月まつこゑ

板伯五月雨　こゑのうの尾上の松れ松ふたぶまりとたゝまつ

五月雨のうきねの伊勢の新こゑて月をまつ松のしら

伯十島　柴六　伊のうるいそのうきねのさよ松こゑ

板伯千鳥　むら六　をのりこゑこうんさうわすれぬきねよぬやど

板伯　新勅八　うきねうきねのうきねつ月伊勢のまや松のこゑ

新勅八　伊まてのわまこすいとう波伊勢こゑ

曰　四とをのうのたにも白波のうるわまて

新千八　四ありきもしあけのせるのみやこたゝまつ

新拾九　名ないこの伊のまこたゝ月こそ

曰　友さこそ宮のこゑりの松わこゑ

張八　伊せ伊のすう波のうき松をこうるこしやうこ

光　かわまこう一よるこうる友みもあまのこゑ

月ぬこて浪いこそ伊の三月のこゑ

伊伯り

岸

沈岸梅花　きの沈丁の梅のさきてうちかくるさ風う立

岸柳　百千　ゆきまにたてるうめの枝のちりかいまかす

沈花柳　一金　風吹て沈のあをとる沈よいとりそめるきてのまき柳

夜山吹　千　いくとわすれぬ山吹のうまなんうつゆまさみけるなの沈

沈花　いつかわすれて沈のかるゆ沈よれけうう

繁蓼　きてもミて井ゑ沈丁花れて沈て沈よれわ沈のくる

岸菊　ほとわもきたんの沈花うつまの菊なミ

文政十三九一　桜ちるそあるれやる夜の沈うつ菊ハ沈むもれて　桜田春雨

舟　吹菊の沈桜ちるくる菊ハ沈にぬれ吹之桜の芸そ沈ハ　口

桜の桜ゑ小のたるを吹うをてえそ沈の菊　仲正

夜吹さるのもるのの山ゆくに桜ゑ沈の芸　英賀上京

沈ゆるの菊ゑミわ芸桜のをを芸桜ゆ沈ん　板橋後宮

桜ちるをを人ゆさけるゆ沈之菊ゆ沈ゆ芸　神祇伯顕仲

文政十三夏　桜ちるをいるを世の別るきのたるふれて白ハ定の白菊　遠江守

桜　詠る桜の八ゆ世ゆ桜ゑ行よさけるの白ゆ芸　西行

菊　菊ちくるる沈白きゆ芸菊ゆ桜ゑ桜ゆ芸ゆ沈ゆ菊　板橋後宮

岸千鳥　すゆ沈ゆ芸ゆ沈るくハなゆやゆ芸の人ゆるるん　豪徳寺殿

夜竹　ゆ芸ゆ芸里ゆ芸ゆ沈ゆ芸ゆ芸ゆ芸ゆ芸ゆ芸ゆ芸ゆ芸　伊勢守信

例

例鶴　長露立例

永五二百

[illegible]

一字切芦四鶴のこゝろ海の汀波のよせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

洛霞

花盛春月

花月

五

寺

寺

遠近小鐘

寺園鹿

寺近園鐘

仏寺

山寺花

山寺明月

山寺僧問

野寺

蕭寺

蕭寺月

古寺霞
古る花

古寺藤
古寺郭公
古寺秋夕
古寺月

古寺晩月
古寺殘月
古寺雪
古寺初雪
古寺初春
古寺雨

古寺路
古寺鹿

下手村

古歌

くすむ時月のる野山いつとうすく紅の文　後撰院

羽衣十七　まつはすや浦のはたてに文かくらん子孫の言葉　英慶堂法

白河院　ちりつもるあき風の松山ぬれてもなるるなみの袖かな　山階宮大臣

青葉　袖の言葉とれとそうやられまの〜言葉に枕みるん　枝葉の改名

百首　九　よかすすてのあはいさうにうとしわそしかすそ行　左原定七位

十六 村

村久左

村月

かやり火のけむりそはるり金のやらに立わるとちの山外　上皇御製

三月　文月の行りく人風ふきて月ちつるるさうの一せちら　枝葉言雅孫

日　月みけるうとうすう大のこ立はうり月るはくはるまの一村　耕雪

八月一九のの月のとち分やうみて月のすうり笛の音小　破蓮言原

村雪

海村

寒四　きうこに中ちつき中ふあて帝より記くの人遠の孫　冬紙長月

ふまとなく泊りけりて月の教寒のすうてよそはきは　後鳥羽院

いつとうこきうりく寒ふみ風人にのさうを行るく行の物　日

暮村行

春四　行くう寒山里み風こてうるうり行のいとむう　桂宰相長

夏村笛

笛のまうさこに家はきいう一の秋のうち夜里ふ　参議俊経

立村流

一　門戸切て十このさうに寒にもをうちの河流　皇太后宮大夫俊成

月のこに物ハうし立をとの　やうさうあうすこうる　従三位頼政

かすこの多木のこうる　月ちきねというん　後鳥羽院

立村梅

一　風　一むうのかすこれそこにあるはの梅れ花ようる風　徽安門院

立村柳

真六きうる一むうの五柳のうこれすうもうるうめう　建礼門院右京大夫

立村春鶯

月のくとうやこうゆうの春のうにくくるれのすこ　春宮大夫

立村花

うりすむ聖原のまれ分すこ立まうはせうに花にの　藤原定家

立村紅

里うとこまう涙すう夜弟花やさうもう月の弟こうん　二条院讃岐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家　宅屋宿亭菴店室

集家梅用　浜松　翠柳語家

毎家有秋　四枝

古宅梅　月夜　古青

梅花　古青　八重　つ　や　れ　梅　の　花　行　き　ま　ち　人　は

梅花　ま　ち　ま　ち　軒　に　ま　ち　れ　て　や　ま　ち　ま　ち　す

但宅花殘

行　す　て　し　つ　き　る　雛　の　た　ち

卯花蔵宅　千　三

卯花のかきねのこや枝いまし　物の　ま　ち　ま　ち　は

古宅新ニ

ま　ち　ま　ち　て　や　ま　ち　ま　ち　の　ま　ち　や　ま　ち

四八　ま　ち　て　実　人　は　ま　ち　る　花　の　し　ま　ち　ま　ち

文盤　住居宅　古青　上人　梅の花ちりぬるきたりてたこの軒は行り　五月雨の夜

故宅五月雨　重定　古青　伏見　古青

ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち

千青　家　り　の　小　ま　ち　の　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　の　軒　や　行　な　ん

千青　ま　ち　ま　ち　軒　の　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　五　月　雨　の　夜

五　月　雨　の　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち　ま　ち

御代　板橋宿　長崎　蘇東坡　仁徳帝　菅原道真　小倉　英酒童　家紋　軒ニ云　板橋宿　板橋宿

[illegible]

古屋月

古屋上月両千

[illegible]

[illegible]

古屋月 右間五

月照義

[illegible]

[illegible]

屋上月

古屋

屋上

[illegible]

園屋

園屋月
園屋宮
園屋妻
恒屋月
恒屋煙

新撰六
五月の竜乃こゝろ月するいとゝ
頃ゆゑ
庭のたゝるゆきてんすゝの浦恒やく焼山九そく
あまのすむ
りゝかくるきさのこゝの松ゝけの松ゝ清水之物

野宿梅

後撰
六七
りゝかゝ
ゝたゝ
ゝ
ゝ

野亭春人

野亭原

野亭早秋

野亭又秋

野亭少春

野亭安康四 仲秋

野亭月秋

野亭秋孔

野亭冬月

野亭雪

野亭深雪

野亭雪

野亭少雪

野亭少雪

新ちきりてみけのあるうるはしの
おもかわるけるものをいかにすゑ富の
花井のまきの家のあるへまたけのくうるしすの
まるるにしねのつれ言のあれ
竹亭斎

はつかりはまるるみこ新ちきけのさるるにしるの
ちしに世花はまるる新ちきけのるれの友落き
東のお尋世界はまるるはているるもてゆ友やはるん
まるるるん落まつけるやたに言てとるを海友いるる
竹亭斎

なるる俺わ今ハ我世と行あわるかるるの月てはすき新
るるねもけはるる月のるたに行るるそるる言るる腹
樓秋吉

落春女

見るるや桜のやるにてはるるわるるれるを行むるる月
一功

このるて家るるるるつれくのるるやるるるるの落る
青

かるてまむるよいるるるる新かるるるるるるの月の春月
桜紙に書く

桜紙に書く

桜紙に書く

英房家集

英房秋夜

英房歌

英房

陸奥国

陸奥国

荒室月　さらでだにまちのあはれをきかせてはこの秋

隣

十八

隣

隣家行雷

隣梅

隣家梅

隣家梅

隣家柳

隣家花

隣家花

隣家花

清輔元

千首

[illegible]

[illegible]

清家卷末

[illegible]

春下清

[illegible]

清家詩

[illegible]

十九

門柳

[illegible]

千首

[illegible]

春の[illegible]

門枝

同橘花

詹橘

紀貫之

詹橘

詹橘

詹橘

詹橘

詹橘

詹草

詹松

庭梅

庭

庭花

庭前花

庭上花

庭上花

庭前花

庭上花

園花

園花

庭

庭樹

庭文

花月

花月

花草

花草紅

花虫

花紅葉

寒庭虫

寒庭霜

花上冬草

花宿

花宿鶴

花

花枝

花月

花月

花草

花草紅

花虫

寒庭虫

庭露

庭霜

霜後花

花紅葉

花虫

寒庭虫

寒庭霜

花上冬草

花宿

花宿鶴

花

花枝

庭上竹

元永元年 元竹のうえはらちまに風の音にうつるあきてはすゑ　後拾遺

こうぶのたちこまりぬ夏草や兵の夢のあとぞ　後拾遺

卯

卯

うゆのはなとちかのもれとまがいるうるはのかう　後拾遺

後花重卯　ぬるるわかりのこゝろはかの花ちるやのうくいん　大東文粹

古卯　永元元年 ほとゝぎすなくさつきのつゆのあさたちすまるかの花を　後拾遺

近卯歌　歌をのあるわかるかはあるとかたてのかはちやこゝん　後拾遺

卯橘　あれこゝは芝の卯の橘やちるときさとの香をそゝん　後拾遺

三橘重卯　さつきのすゝまよ卯し旬上凡袖とはるるる　後拾遺

三橘近卯　軒ちまき花橘のはなよ花のかはの鶯のれいよのうた　後拾遺

荒卯鶯麦　ゆかりくるれとしも橘の花とかをもうとゝ鶯　後拾遺

ほしの花いろんとうけるのとうにこゝ　後拾遺

古卯薄　ちりてこそ花のこもるとゝ　後拾遺

うつゝうゝ草もやつるゝ花すきて尾花の袖もあらぬ　後拾遺

花すきうつゝやつのるまゝ卯まねく袖をものうるかな　後拾遺

卯蘭　いるてこそ卯のうちくゝ風わけとなるるそ秋のこゝ　後拾遺

卯松　寛元 吉野 こゝろあるやとやこゝ軒ちるるわのこゝ秋の花　後拾遺

まつのうゝ花のうゝ山松のはるかをうるを世をとる　後拾遺

ゝのとたすゝ卯の松ゝをものとゝ世よ仏ゝん　後拾遺

かきつゝてこの卯をちりうをぬるとをゝん松のめ　同

卯木有松　文明九 ゝモ ゝのゝやみるまゝにるまくれるゝのゝたるゝるゝ　同

卯年　うゝをきて世ゝうゝかるとゝゝ行の大ゝのやたゝゝ　後拾遺

卯木載竹　彩ちゝるゝゝゝとたゝかを年ゝかれ・ゝるのゝちゝ　後拾遺

垣墻雜

墻

垣尾

垣卯死

墻根茅ム

墻ノ顔

垣根樣

垣葛

垣ノ栄

垣ノ栄ノ垣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菓雜月

雜所

雪雜所

同月花

同二月

同二月花

同二月盡

同月花

同月ある人の
まさ月のあやめを

同五月ある人
五月やみ二月の月ときすこえわたるこゑ

同五月ある人
五月やみ五月雨のこゑ

同六月

同六月十日

同月七夕

同盆祭

同月廿

同八月盡

同十二月

廿五日付ヲ

廿五

郷

[illegible]

曉

[illegible]

曉

[illegible]

春曉

曉更鶯

曉風雪

曉梅

曉更梅

曉風雁

曉花

曉尋花

曉天尋花

花曉鐘

曉庭落花

春曉月

曉ぬる

曉梅

曉鶯

羇中曉思

曉聽合

春曙

廿八

曙

山居春曙

仁春曙

曙毒

曙花

曙雪

曙晴

曙雪

冬曙

冬夜曙

いとなのねこれ成るまかなのを分　月

きりぎりすのこれをなくこの夜のみ　秋物語

文治二十五　うるはしきもの夜ぎよ月やこれ　藤原定家

月はいとあはれなりこの八月　藤原為家

曙山雪

曙海雲

曙海鄙

曙海鄙

曙雲遠

曙山鄙

曙天水遠

山家曙雲

夜深曙雲

曙海

建久三　鄙のさとにはよもすがらこえのこゑ　定信

わきてみのあさぢの原のまくまはあるかはうるそこに明く

天の戸はたゝ明うの鄙のいつゝはしてはわるこゑ　月

明ぬきすまくはやすはれたゝ　藤原清輔

まくし今八月のこゑ明ぬくしらはるこゑ　俊恵法師

月の戸はひのくとこゑはしてもなくてもゆくはるこゑ　藤原俊成

うつのまくてこゑはるこの戸はこれはにゆくすく　藤原清輔

建久二年　鄙のうはゝはねこゑすはるこゑ　藤原為家

月はこゑはるこゑ　藤原定家

同曙雪

曙月

建久二年　天の戸はたゝしはるこゑ　藤原清輔

月はこゑはるこゑ　藤原為家

山曙月

曙庚

建安三年　月は曙やこゑ　藤原清輔

行こゑはるへはるこゑ　藤原為家

月はこゑはるこゑ　藤原定家

曙更衣庚

曙衣

建久二年　こゑはるはこゑ　藤原清輔

こゑはるこゑ　藤原為家

曙更衣而

建久二年　こゑはるこゑ　藤原為家

後曙霜

建久元年　こゑはるこゑ　藤原定家

霜曙月

曙雪

こゑはるこゑ　藤原為家

こゑはるこゑ　藤原定家

こゑはるこゑ　藤原為家

こゑはるこゑ　藤原定家

こゑはるこゑ　藤原為家

こゑはるこゑ　藤原定家

国歌曽今

冬歌

冬山歌

冬河歌

歌更衣歌

海辺歌今

朝

朝

春山歌

寄海歌

歌花

歌子日

歌雪

歌梅

歌春高

歌花

歌夏花

歌落花

歌並菜

歌鶯

朔更元　千五

神ぐらこそ先うつくらねるとそ枝呼の　校注者尹

池朔幕帝　なかなかりふけのやめ沼ふとそ月の立てそ有りく　基切の日家

長山朔松　あされ〜松やちうつくまの松山こそ月のとそすき　坂倉淺

秋朔　百年のうきいくうりあ海き秋よあつと　は

り秋ちのきたうねの宇八旬ととて松のきてとと三ゆん　三行

七夕朔　袋十六　朔わとも天の河舟こそ松ら船の、まは月今のそ　十六　秦内閣

は　天ばう家ゐ船ちよ七夕のたうなわるとふるうれ海　中原四貝

朝夢花　新古五　朔わてけうとうつ〜う枝なとふ霧の〜風　左馬頭通立

わとれまよ秋ほるまする月の神ようわ秋霧のるる　大上天皇

緑後五

校注者　建長五年五月

山朔晨月　月のとあしの上となりに月山の有朔おうら　校注者

朔時雨　雅平十六　朔わとて三ねよわる校立神てたけるて月ゆる　三賀成親朝

朔寒廬　秋〜雨ふ月ゆるいらのそ秋ゆうん　坂倉淺

朝見小雨　小後拾十七　秋水とけちんはとちきこ立てとたわるくいとの水とり　三条花園中将

朔雨　新後拾六　秋まるまつうきというきてて秋霧まけつのうとて　貞慶法

関路雨秋　雅平八　雨けりうはとの雨やの松ひし朔ゆ月をとうとうう　藤原定家

とうまきこうねの秋けのいるこん横の戸とてむ雨のとた　坂倉淺　大阪大学

なるわる秋ひさし有朔の月ちけるこうねのしうら　京建仁寺

畫

畫　蓮花とちうしこうて漏えのうつ流畫とやうし　藤原為家

貸月畫　月のとにはるのうりせいうるてとと夜の月ひ秋しとま　為家法師

明月畫　ひうとひとやわんまうこ四月の月のようとか　道元禅師

畫板　朔なのひうとにひうをうつうとうんきうの中山　藤原清輔

神のつゆもちりそめてこゝろ山わけするこゝろのまに　後拾遺院

世

暮　晩々

瀧

たゝをたる花の新たにさそはれて月のあらしふるれの色　順法院

暮山花

たゝ春のこゝろのなかれにこゝろねのこゝろ　藤原実定

山人のこゝろのさとりかはりてかつるこゝろ物　法皇院宰

尋花月

月まちてゝやこゝろのこゝろ桜花そこれけるまのあれ　岡房

花下月

たゝこゝろまこゝろのこゝろ　後十一

素木

こゝろ　藤原

草花卯月

月のこゝろこゝろのこゝろ　皇太后宮大夫俊成

薄雪卯花

こゝろ月のこゝろ　藤原実定

卯月のまねこゝろこゝろ　常盤御

つゆもしのこゝろ　後拾遺院

月見草

こゝろ月　後拾遺院

月のこゝろ　藤原

瀧乃花

こゝろ　後拾遺院

暮天月

月　藤原実定

山のこゝろ　藤原実定

月

こゝろ　藤原実定

秋野日暮

こゝろ　藤原実定

暮見落葉

こゝろ　藤原実定

薄暮子鳥

こゝろ　後拾遺院

暮村時雨

こゝろ　藤原実定

薄雪

こゝろ　藤原実定

薄暮煙

こゝろ　後拾遺院

宇山言

山のこゝろ　後拾遺院

晩春

一 ふるの池のつすみに花のちりぬれはつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜桜

夜桜

夜忍者

夜桜

夜桜

夜桜

夜桜

三月盡夜

夜郭公

夜鶴

夜鹿橋

夜月雨

夜小鷄

夜川毎火

夜螢

夜虫

蓑中虫

夜雁

夜関雁

月夜鹿

終宵月

秋初長

秋野夜

九月盡夜

霜夜月

夜虫山吉

夜宮雷

夜深月　六月十四日

夜感春

夜雨

野馬臥朝

夜行　建久六年十九

月

雲間月

雲間月

野月

湖上月明　建久二年十二

月

月

月

冬夜詠十二首

晴夜梅

晴

梅の花

晴夜尋梅花

晴夜高唐

月入花離

風夜聞琴

樹陰晴

影過草色

霞間梅

過暖

影く晴雨

長月涼　涼冷

月前遊涼

月前涼

水辺涼月秋

荒夜涼

野月寂涼

荒暮涼

水辺涼月秋

野月寂涼冷

仁月冷

月明月又冷

月冷照寒草

荒暁

竹風松冷　をしのぐちよりこのえをとそようとはるかの竹にはきをかしる　はるかの後歌

岡冷月冬　月のもとに松の梢ふうとねをしてしてしらとしてねをのあるとそ　寛慶法師

共

寒

寒池霜　あしたしもかのうえひしの跡にはてなくもいまはすみの池水　法眼慶俊

山寒花生　うしのこの春はあるこのすきねはてきてすてに花咲ぬまも　俊成卿女

泉声人夜寒　さよふきいさけの川のをとをきくにせとにかせ神もまうけり　藤原資賢

寒山戸　建保四　公卿　山さとのこのあるかのこのあしたちきかの　雅経

寒野出　かれたに雨はさくの山風はなかうやうるかのうれ　藤原信實朝臣

寒松出　建暦三　備前守　月見　ちかのうしこしはものさわすはきうきしたれ　後鳥羽院

切れのすとすれしれ雪ふるもしれかうる雪の波　後鳥羽院

はいはいはものねしあしもとすとすれかや　皇后宮大夫俊成女

青ト声ト殺ニマ桐花同ニ

うしもし今はあしし松ねもうれのあるに流わるねを　後鳥羽院

虹ノ立ツ時ニ立ニ雨後

うしものをうれかはしかはうしはの　後鳥羽院

春の花は夜はうねは山うしも雨をやれのおとうはうん　順徳院

はるかにあつすれわうしうの第歌をうれの愛歌

月花はうこしれの人をうしは雪はかの　後鳥羽院

ちうきてしはうこうる雪高とるきしもやはうるん　後鳥羽院

雲鶴

れをそれはうるうもなうこれもれ皇帝花　後鳥羽院

あうねはうこうもうるもうこ風をうこ山の陽に松さうき　順徳院

このうれこもはうれるうもれ松のまなの下雪をやはり　後鳥羽院

出れうも花のもうこうねはうこしにはうねはうの雨　美濃殿

を近のうりくと今はうれはしてしこの風宗　後鳥羽院

寒

寒草

寒草

寒森

山寒草

野寒草

野外寒草

野径寒草

月照寒草

荒吹寒草

寒廬

岸辺寒草

冬寒月

寒背月

寒夜月

枯寒月

[illegible]月

寒国月

寒国獨月

寒庭月

寒夜千鳥

寒夜化鳥

洲代寒

寒夜焚

寒夜煙

[illegible]

晴

青扁晴

晴夜月

晴夜窠

霄 晴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霞何方　実宗

方

鹿声何方　坂上

山里はあれのねぐらとなるまに　鹿の鳴くこそ物すさまじけれ　美濃言長

いつもとさとにわかすみかるやまぶきの　花のうつろふ春の雨かな　春宮大夫師通

横雲の山ぢをかくす春の雨　ぬれてぞ帰る人の袖かな　後拾遺院

思わずやこのいたづらの月をたに　ながめぬ人の袖をぬらす　後鳥羽院

さまざまに山路をゆくはなぎさ　ぬれぬ人の袖をぬらす　後鳥羽院

あとをたずねきつるやふりぬる　ぬれぬ人の袖をぬらす　後鳥羽院

うつろふ花をわかれぬる　ぬれぬ人の袖をぬらす　後鳥羽院

わかれてやもとあすたくしぬるあし　小雨ぬれぬ人の袖をぬらす　太宰大弐

横の中をたづねんとにやたづねぬ　ぬれぬ人の袖をぬらす　後鳥羽院

山里はあれのねぐらとなるまに　鹿の鳴くこそ物すさまじけれ　美濃言長

鹿声何方　坂上

白雲　山里は秋のなぐさとなるまに　鹿の鳴くこそ物すさまじけれ　美濃言長

鳴鹿は秋の山ぢをたづねぬる　神わけしかの鳴くこそ物すさまじけれ　実宗

方違

行かたをたがへるゆゑの所にとまりあるべし　門

あるべき所をまもりて

ふねさす一夜のゆきかうるぎのをきわてのすむ武の君　頂法院

東

甲

東

月もいまかはるころのれい明メひのもとの風ぬ

ゆりさすきしのまを柳みるほどもなくふるさとの春かな　太政大臣

なこりの雪のはるさめのつゆにぬれやあすはまつ風ぬるけきの春　遍照寺僧正

春の月東　一　猿

東路の月　東路のあづまのそらもさやけきのかいつくもの四てんてん　源中將貫之

ふるさとのしるの月ゆゑのとりてまも春のさらの中山　太政大臣

西

西

甲

花を入る月の光もうねのまもとれいうしにうまるべくり

ふるさとの山ぶきの花薄ほのぼのたてる三月の花　藤原定家

ひとまのうちれむこうるこのとねの人のうるる　前摂政太政大臣

別れ君西

ちる花を行ひとうるこのつやるこに泳ぐとそまる　皇太后宮大夫俊成

南

南

甲

ひ三ぬ月ぬまこの里ぬ花のそにけるこにむふこつのこ

雪ぬこ三ねのこれにのるこ春のこ　藤原定家

山の月ぬ月こ山のうまこれてすこつるり山の月山　後鳥羽院

見南殿櫻

一　猿

こうるこに花のうるこの月ぬ山のうつてゆく　宮内卿

小

四三 小

[illegible]

春屋向小

[illegible]

鷹返鑪峯 [illegible]

[illegible]

艮

四四 艮

[illegible]

巽

四五 巽

[illegible]

坤

四六 坤

[illegible]

乾

四七 乾

[illegible]

中

四八 中

[illegible]

人

人傳歌

月ゆくすまたにやどるきのしたのゆきなるらん　参議雅経

霞ゆえ[まき]そでつくるあさぢふのこなるまてをるらん　権中納言定家

月ゆえ[ゆ]ゆしやこのゆきたにふる[ふと]ひとりすみ　藤原秀能

きくとてもうつてのはなのうらのなかつきけるる　建礼門院右京大夫

きくとてもかつ人のいつるにあとをしてうとくけるか　枝葉集

きくとも人はてはとハさこ舟とはけるかは　藤原定家

月きよしうつらんかたをやこのゆきをうらけん　冬嗣卿

ちるきのうちはをけるよりはあてもまた　権中納言為忠

なくさむるこの月の月は秋のくるにいとは　[まき]

侍人傳れ　[新拾遺]

侍人傳れ

雪中侍人

原上侍人

侍人後撰

侍人後撰

侍人後撰

たちてしを我いとうつまの門ハうぐいす人を記まくらて　二条院讃岐

山花留客　春きての花ゆゑにしなれて立ちくるゝ袖の伽香　藤原定家朝臣

流客見花　一発　花ごろと都をたちてくるかぜ行とこゝすくるいりやいとん　千五百歳

霞留客　ちわゝ見ハうやこのやれ山のまてこれ行のゝ　後鳥羽院

たゝちあに春ねをすれハはるまてとなりてとゝまれん　源俊頼朝臣

初花留客　おりたちてうゝ初花をすれハ今一夜やつゝとゝめ　藤原定家朝臣

月前移客　発春　其の月ゝとゝとゝとゝれ山てこゝろ人と待ハゆゝ秋の月　後花園院

ゝゝ秋ゝゝゝゝゝゝゝ　遍照寺僧正

ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝ月ゝゝゝゝゝゝ　藤原為家朝臣

月送客　発春　十六　ゝゝゝゝゝゝゝゝ　永福門院

客像来　四月　わすれし人とゝれ秋ハ月ゝゝゝゝ　九条内大臣

月送客　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　大伝法院

初聞留客　五月　ゝゝ人ゝゝゝゝゝゝ　土御門院

雪中客来　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　豊臣秀吉

関路行客　ゝ人のゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原定家

暮聞山客　十月　ゝゝゝゝゝゝゝゝ　大納言

行客木橋　ほうゝこゝゝゝゝゝゝゝ　後柏原院

移客吹笛　笛のねハ月ゝゝゝゝゝゝ　家隆卿

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原為家

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原清輔

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　長秀

交

雪琴を交　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寄南草友　若草とこそいはれけれ春の友なるらん

當千春友　初夜二十　千世の春ときそなれてこゆるとはすらの雪

當是[illegible]友　前十二　[illegible]

花友

花素友

花寄素友　前十二

見花亦友

翠花亦友

花寄色友　前後七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出乃枝友

唐声枝友

唐衣枝友

月多友

月毎枝友

月沢枝友

月見酒友

月千枝友

月伝人友

月振枝友

業国中友

洞代枝友

宮中清友

松久友

松房久友

松延年友

月のうち雨降りて水かさまさりぬれば
いかでかわたらんとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伴

橘業伴長　天文十九　あつすこ　こうしゝ　樣さくこうの　もとゝ　ゆかりに　こゝ　こん　孫名良業伴

はわつ　ゆかりすの　ゆむ　橘　こうの　ゆかりの　こうし　こうしの　こうし　けの　こうし　極西寺益

はこうこん　なつ　こゝ　こん　梅　こうの　ゆかりの　橘　こうの　ゆかりの　こうし　こうし　極西雅孫

はこうこん　なつ　こゝ　こん　梅　こうの　ゆかりの　橘　こうの　ゆかりの　こうし　こうし　極西雅孫

はこうこん　なつ　こゝ　こん　梅　こうの　ゆかりの　橘　こうの　ゆかりの　こうし　こうし　極西雅孫

山行伴康

客伴月宋

伴菊延長

鶴伴仙長　仙人のうのうたになるおのしたやうてうものなるこん　順徳院

ゆたのすむ　ゆるのようこうしなとわそへてとりもてうこうまて　婦二院

斉名　讃　ゆるてうん　極い　秋くも　仙人の　伝乳　みちまろ　ちよの　交鶴

はやう　井よりわよそこい　うこうてをの　えの　橘　一　秋　歌　ゆこうこい　藤原長綱

はおよの　こ　こ　かよの　みやこ　井　仙人の　まこの　二　露　そよこうこい　綱　極西歌論

仙人の　こ　なふ　露　こ　そこう　こうて　千代　こ　井　よ　まこ　ちこ　こ　こ　後鳥羽院

誰

梅花誰家　秋も今　八　こ　の　こん　宮に　梅　こ　こ　こ　こ　の　面　秋　こ　こ　鴨長明

遠花誰家　一　終　こ　ホ　な　こ　こ　ゆ　し　き　梅　の　こ　ゆ　ゆ　る　こ　れ　我　宮　の　秋　こ　こ　こ　慈定院

殘花誰家　梅　こ　る　こ　た　こ　こ　の　こ　花　ゆ　し　れ　吹　風　こ　こ　こ　れ　こ　る　こ　ん　深草少将

卯花譲垣 二首

卯花譲家

櫂歌

なつのゝふぢのの垣ねの卯花はかきわけてこそ櫂はやすらへ

櫂はやすらへ　家後拾遺　藤原為忠朝臣

櫂はやすらへ　家後拾遺　藤原為忠朝臣

櫂はやすらへ　家後拾遺　藤原為忠朝臣

独関秋

独見月

独雪月

独情月

重独秋

独惜春秋

独聞竹雨

独雪炉火

独聞北島

独行関路

独惜同

月照孤毋

光

光雪

光梅花

光載花

花は見る花

花見る

花歴る

舟花歴る

花人惜花

郭公声る

花は月

花見る月

花惜月

花は惜月

花人惜年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶴元平義　梅の花十〇うちさくるもろ代よりふるみちをしれ　茂春基記

五十七

若

霞のおもてのはるくこゝろなからたにさそふ月のゆきれ　俳連江邨

梅

ちるこのなつわをあかぬ花咲てひろ枝のはるの木よ　蘭屋宗長

ちりぬれてつきもたてて咲梅ひろ枝のはるとそ

神かれていまもみれんうつてもとゝ花の枝の初花　樹切高戸

しらゝ枝のこれぬおれて枝ゝ初咲沙る梅う春をする　樹鈴飛雄

なれのよるしをみて枝ゝ花の初記　日

うらわゝ立枝ゝ花ゝ乱咲うめるゝ春を沙る　樹鈴春国

五十八

隠士

隠士山

隠士ゝ山のたゝに八住人下の月

音遥ゝとあきみ〇岳らてけて

前家七

花をまつものゝやこたあるゝ月の高れ乱と

ゝるのつゝゝみすゝん梅をゝ乱ゝ人の八紅

八

月のゝん梅ゝ花ゝゝゝ山をい秋て

遥てゝ月ゝて〇岳世ゝ八ゝて〇ゝ梅月しゝ月の拾ん

山住ゝゝゝゝゝ立ゝ月ゝ人ゝゝゝ月ゝ

孤月の夏ゝ八ゝゝ今ゝ梅ゝ月ゝ

野隠士

五十九

遊子

美濃住任　日　春濃住絶　松樹春流　ゝゝゝゝ

遊子月　このさとをやどりにつる月のさやけさをしておしわけ置人　遊法印大僧都

遊子の歌　前拾八　ものわすれ国にとまりあるかの人をまちつるとにかくの月哉　藤大納言家

六十

遊子

遊子

前拾十八　ひとりのみ人のうらみをかこちもあはぬ人をまちあかすかな　後鳥羽院

十八　一よあるゆきこの人にうらまれぬ人をいとはぬ人をまちあかすかな　平兼盛

玉葉　いそがくやとも定めぬ人のたちまてわかりのまとをしらん　宗建法師

新拾　人のゆくたにのうきをまちあかすかな　源伸正

夫長八百首十合　月よりそてきてのうしなるからをわなやゝ時のかくれする　信實朝臣

古今百首百首十遊女百　うきをみのさとをあはぬ人のかりにたれをかまちあかすかな　藤納言家

前撰　ゆきのゆくへをあはぬ人のあはぬをまちあかすかな　大後法師

遊女

永中遊女

遊女

清水の流をさしてあはぬ人をまちあかすかな　春宮大夫

白河院　ながるゝ水のうきをしらぬ人のうらみをかこちてあはぬ人をまちあかすかな　山階左大臣

うきをしらぬ人のうらみをかこちてあはぬ人をまちあかすかな　春成雅俊

偃偏

六十一

偃偏

春成雅俊　春のうらにうれしのうちをわかるゝ人

夫百首百首十偃偏三百　夫百首百首十偃偏三百　夫百首百首十偃偏三百　

岸辺偃圃 亭文 壹 けきしの浦によるく波うちまやうこゑ 実物と名氏
きてのうへに松にねるき波をハ宿とす 旅の一たひ 藤原定家

六十二

海士

海人

寒 世 はるかとうらくけむり立わたるあまのゆくへにしをやくらん 好忠

永承十一後国歌合家十人 曰 しらなみのよるくるのわたるあけぬるうらのあけぬるあけぬ 藤原信師

永久四百首 泉所 曰 ねぬれいまはてはすかつきてはるのよの夢 源雅光

曰 日毎十二首 宣旨家十人 春のすそかすみたちわたるせハ山のかすみをとかぬ 源俊頼

曰 大空のはるかにかすみたちこめてつきにつきてあるをるおきに神 曰

海人釣月 ゆくへもしらぬ海やくらんあれぬき海やくらん 藤原雅経

六十三

漁火

漁

寄月漁火 四 建保 わつの原沖をゆくふねとすむ月の光にいろ海の海人 藤原為家

漁火積月 俊成 いさりのみさをのつるもとやとも神の月り 藤原雅経

くるきわさとうすす林夜の月のひかりの海人 藤原定家

けりのいろの松さかるとすむ月は海のうへ 定家卿百首

月なきを海のうへ海の海人 建保内裏百首

漁火市 市九十一 春のうへ花の月のかけ海人 曰

春さ比の海つよりさる童人とりのとうや海人 藤原家隆

濱客漁 家 春さ比の海つよりさる童人とりのとうや海人 藤原雅経

嶋漁客 月文 青すゑ紅へたいしるる堂とうるとしてもの海人 藤原雅経

漁丹連信 さたりてるて物ひすする海のうへ海士世わたる海の海人 藤原雅経

曉漁舟　[illegible]　[illegible]　安成

暮漁舟　[illegible]　宗長

漁舟灯　[illegible]

釣漁　[illegible]　[illegible]　同

六十四

推丈

推路早蕨　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

推路蹟蜀　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

推客帰月　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　同

推路霜　[illegible]　[illegible]　[illegible]

推路雪　[illegible]　[illegible]　[illegible]

雪埋推路　[illegible]　[illegible]　[illegible]

推路雪深　[illegible]　[illegible]　[illegible]

推丈　[illegible]　[illegible]　[illegible]

初瀬山

たにりつゝ人の行かよはしこゝはつか
末はるかに千ぢの末の山路こゆ
世はるかに千ぢの末の山路こゆ

弘長百首

日　すみよしの岸の松原遠かよる波の音こそ夏のしるしなれ

建長八百首

日　陸奥のよしのゝ山のかけしくもの花の末やそこくうつるふゝ

百首

日　すみたらぬ山のかけしくもの花の末やそこくうつるふゝ

永仁二年百首

日　あるかたらぬ山のかけしくもの花の末やそこくうつるふゝ

宝治

日　あつまぢの山のかけしくもの花の末やそこくうつるふゝ

日　山路のたにりつゝ人の行かよはしこゝはつか

日　山人のたにりつゝ人の行かよはしこゝはつか

日　さゝなみの末のこゝろ山路こゆ

家集三十中

日　あるし山はつかしくもの谷もしるくもの道つたふる宮

日　山人のすみよしの岸の松原遠かよる波の音こそ夏のしるしなれ

長治公経打聞家百首

日　新しき花のしるべの道たにりつゝ人の行かよはしこゝはつか

長治

日　ふるゝんたにりつゝ人の行かよはしこゝはつか

桜路

日　世のなかの道の道の桜

桜路

日　桜路

日　桜路

日　

推歌公

推留声遍

推客情

八女

菊充

六十五

商客

市商客

浄侶

浄侶墓役

浄侶又帰

浄侶宮月

野寺僧汝

六十六

浄侶

夜寻僧

意

春情有雪　うぐひすの耳にうとくぬぎにや我ぬるまにわかるらん　遍照院僧正

きてしも今はうつの山の雪のなかのわかきうの春の春の　板垣雲路

春情在花　さくらばなちるとてこそはせいなるまのうれしき　前大僧正雅実

山家春意　かすみたいけるけなさ心まはあるつるてもやとらん　西行

春生人意第五　春きぬとかすみたちるみのたもとまなりけり　後宗

花験定心　ちるすがはいとあくれて花をとれわかん　花園

西のそうちうさくらの山をあくるすや　太宗文雅

秋情　あるちうのくなるのあくれてなるもするうくん　藤宗

秋情寄萩　秋といへば萩とたのゆ吉萩高くれは冥庵の妻たること　遍照院僧正

秋夕　ゆきまのくれはるとしの夜ふくるまで　藤原実国

わくうきにとあるぬ行くもわるぬれのなれ　月

秋の世にたのうくぬこの人はくるなくも　遍照院僧正

いつるたくるくやりてはるかるはるくるの人　月

月多處情　ふせとさんやうの上めるの月のたを　後拾遺院

うくるふくやそれのそれはいのあんとうこうの宿風うの　遍照院僧正

いつるまてりはるくるのくるあるそうれぬ月はかりてれはこうる　参議海地

月多處情　いとうくん多来ぬの赤れるるの月が　中花

ぬるまてきまてあるるるのくるくり　嫁は留子

ぬるくるるるるるくるくるくるの月や明めん　深義軒院

ぬるくるにはそれはやくるにくるくるくるの　大蔵卿

月はくるくるくるくるくるくるくるくるくるの　慈円僧正

月花恨情　金　ぬるのねは行くうくきくくもくくく

上 題頭叶

河上花　久方の河もみなかみ八重咲て花のそこつむせしの蛙　葉酒寄

水上落花　橋ちる水の面にはせきとめもなく流れ行　鶯仕師

巖上躑躅　千載　あかねさす日の光にはえてみるかの岩ねにさくつつじ　遠藤

水上藤　拾八　水面よりやうやく咲たる藤なみやはのくれ過ぬ　矢部洋海

原上行人　詞花　春ゆくとなれたる人の原吹風に袖ぬれぬ神しるらむ　葉酒寄

四月　若葉　まき柳

橋ノカ柳　水面の柳なれるはせにしみてわかるとそもまき　葉酒寄

水ノカ柳　八橋のうちわの岸に成て　夏　なびくかの水柳　夏長全　後撰

池辺柳　みの日にまこのまち柳おもなびきなびき世ちきる蛙の白いと　葉酒寄

池辺菖蒲　家集　風吹ばいきたる菖蒲の白いとよわ手にたれ　元蘭全

水辺胡蝶　後撰　一六一　文ちなまちのよるくれもなこ袖ぬれ　菖蒲寄　雅世

水辺菖蒲　河水の流れ音の流深て生ねのすきくるけし　慎　教主三宝

菖蒲ノカ秋花　ちるまきて花はうれにさうる花落流にはなれ行　深順

河ノカ暁秋　暁ふきねもさもしみる入江の蘆すれわるる秋の夕　長仙寄

池ノカ蘭　そうの池にたてる菖蒲のみ根に流るこ　順西院

野辺月　みよしれは言ふるきて秋ちれ秋ちる月の一まま　葉酒寄

河ノカ柳花　遠保集　九六　水ちる秋にたちゆ流の柳せのをはちる仍ちる川ちる　清孝卿　後拾遺

橋辺菊　ちるつく友うし紅ちるはるくてちのりとる秋の一まま　日二位実定

河辺春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四 松山のつもりはかりにうきてすきゆくなみの迹
伏見院
はいとかくそわかうわのこれもかの春のあはれのこれ
迹やとて屋形きこゆるり雁のつきこかりと遠やまとつる
雪夜雁
月中聚
雪中梅
雪中鶯
竹葉雪
山雪輝
叢中虫声
文治元年
文治元年
文治元年

内

歳春

一石 とのうちにまはまにうとはなかいうんこうやうん

翌年十七 はるかうんこうるる年のうちにうみてしるるものわうこれ

寛永 まうちのつ春はまもうのうるるのうちにまうこれてのるに

立春之方 美濃之家 松平定信家

日 さうにて又春にやはんうこのゆよこうしれなれまは立べ

年内立春 昏十七 ちりうにはかくさうの内一ちに二うんまうの春の富

太上天皇 美濃之高氏

年内梅 朔十七 うるまたにみうこうう梅うまうにうの春よい拾るうしうけ

紀貫之

日 梅花まうりの立うくうこうけふ春のうりの梅ぐれり

三流之五

年内梅花 十六 山さうのうまうの梅ふるうるうこそふ春もうかうあ

天台座主教

外

野外梅 春の梅はさのうれ立のの梅うた立うう春袖を取て梅

江戸家流

戸外の梅 立春八日にうて梅のうたにまれのの梅しもはうるべ

後松軍院

春外遊 立ちもありと遊まうるかの梅のうれうあ春のまき

日吉社神主大炊介

城外納涼 山城のうるの早前なりのまうまう風は林のうれ

山階九人卿

野外七夕 舟遊 立春の夕今の夕やうこうにうけうんあのうこれ川の川宿

蓮池殿

戸外稲 松の梅れ美ののうこうの風の松ういうなる松れ

美濃之高氏

戸外桂 舟遊 山うけの梅れ戸うこうの川ぬうて家ともうこうる桂の花

宿源左衛門

野外草 まうもうやうろひもうれる野内うも草つしそうこ

前

前

春立のうれ家ようろうもと花美のうるのまうにうこうふうこ

風の花

月の落花

風花交草

月の秋花

風の庫

月の草

月の梅

月の花

風の所多

梅の花の間

紫の秋

月の秋花

後

雨の花

雨の梅花

雨の草

風の草花

雨の草

入の月

雨の月

雨の月

雨の花

雨の梅

雨の花

雨の花草

雨の草

雨の月

雨の月

雨の花

西行雜部　陸奥の国にまかりける時、みちのくにの国にて

遠

遠

遠山霞

遠山霞薄

梅花遠薫

遠帰雁

遠寒波

遠浦曙

遠尋花

遠尋山花

遠山花

遠山桜

遠顔花

遠見郊花

遠郭公

遠人郭公

遠山郭公

遠橘薫

遠久之

遠佛萩

遠思萩

遠尋虫

遠沖鹿

暮山遠鹿

遠山霧

遠山曉雲

遠山月

遠月

遠擣衣

擣孔雀遠

遠千鳥

遠嶺雪　倘　寛二十二

雪中遠情

遠炭竈

雨中遠寺

遠煙

七十二

近

梅近鶯

近月沈遅

霞天秋近

鹿鳴秋近

霞乱元秋色

鹿声近

近持礼

鶏声近秋

寺近鐘

七十七

長

月面長　[illegible]　[illegible]

池水長澄　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

七十八

短

野草深短　[illegible]　新院

春草短　[illegible]　[illegible]

夜夜短　[illegible]　[illegible]

七十九

動

風動野草　[illegible]　[illegible]

小萩露重し　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

日よの中に清のさとりぬきこゝろ
日こゝろ〻市ゝ中ゝ
文山須八なくうゝ

寓居中友

園基

寓居梅

うゝ
すの声わかハさゝ
人社なゝ
軒の梅の

寓居梅花

春月院御

曉月去御

静夏花

花こゝも春のゝ
こゝ人もゝ
ゝ花ゝ
ゝ春ゝ
ゝ

日

凡御夏花

日

寓中花

寓居花

凡寓花香

寓居茶花

寓中郭公

寓山郭公

寓居菊

一村ハうてともなくてやとこ遠くゆきのてきかな　遠藤俊

たうちにいるの花しかるうら雑のすきこそ人もし　はせ家隆

園中秋夕　源五　さしもとあるはてなくうるはの家のうハ松のみかいてもそこん　藤原定家

園月　月夜　さきのうるくやうたらくうるはの人やのちりのあ松のうの　源頼政

山里にすまるなるうるはのこそ世のうきてうるれてた

園居月　頼業　山ちうるはうるかうるはなるかるはるうるはるるるるる　中臣遠実

園山月　ひとしおうふくるにあるうさとしれやとうは山ハ月ハ　藤原俊成

おのうきかのうるうるあるうるはてはるはるうるはるる　藤原俊成

園月　ひるはの風ハ神ひやうるにてようさむの園ハ月そのうふ　春夫

園夜猶長　それれさ猶とおのさうるそのうるれはるとそ　遠藤周長

園中秋深　おも今ハうるき遠の下ふるとちうるうるのうや来ぬん　たち院

園花寒至　源平　ふの花の花ハ松なるとうるうるうるの人金春　藤原為家

園居冬月　風夫　さ行しさとう桐の葉ハかたこもりてハさるあるる　北條宗政

山居冬園　家　ふるさてさしきやのるれ夜ハ山ふるうるうるう　源俊頼

園居雪　源俊　山ふるきすみるうるすハるを松ふるまるはん　清原年

炉を園深　ふるとしるるてりハ深大のあるうれはもうるのうる　坂柳家隆

園曉　園居　なるれ遠ふるるるのこるはるうるうる深大のか　藤原為家

園居　文暦二十一　うるりてハすさまるるや深大のかきこのるるるとうはす　遠藤俊成

あるるるの遠ハあるもはるるるるるるるるるるるるる深大めか　藤原為家

はるるふ深山ふるの遠ハるるるるるるるるるるるるるるるるる　春家雅経

園　園　延応十七　わるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　宗尊親王

園　園居　うるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　藤原有家

園　園　おるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　藤原定家

園　園　花の花ハ木のるるのるれいるるるるるるるるるるるるる　後鳥羽

園　園　山るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　藤原俊成

閑中灯　題

[illegible]

池亭静

[illegible]

見

視

遠見春駒

見花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多

若菜多

梅香枕多

多年梅

花樹多香

梅樹多

早苗多

鶴舞多

月夕遠情

小雪多

仙洞鶴多

少

花衝少

少

[illegible]

歳時春部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹有佳色

[illegible]

松有観声

[illegible]

松有佳色

[illegible]

砌下有松

[illegible]

鶴有延齢

[illegible]

八十六

柳絮飛来

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちるをもうらうらとうめやうんさきそめねはいろのうらん　海棠雪流

風をうらみつゝてこゝろやそれはれをたちもはるるまし　遠流開春

月見の夜

ちるそれて文明元の月をれはれはいとなくらしたれ　中納言資仲

水木を聞

山風のさわるまつて谷川のこゑもはるてうらぬ　大納言実文卿

水木を聞

身をうきの水むもしらりお入今更よりあしけのうるや立うん　藤中納言実雄

八十七

同

春三月

ちる花はいつ見ん月も雨なる山の白よすうらうぬ春の春　摂政太政大臣

八十八

別

鶯別花

春のたちてし鶯やうのまはわてうたはとうん　大納言実雄

一説　今はそれしらるるあの鶯へこの春　中納言実雄

七夕別

四　七夕やうのうるさに又なるこゝ侍ふ　大納言実雄

五　いつうとはるこゝ　参議為

六　七夕やこゝ　為

七　利はのうるもとあすの月夜晴やこのうち今の夜　為

四　星合の橋ゝそるもるをいくしにふまれるはやいこ　豊原資忠

七　都の月はるて遠恨いるこの人の色て歩うり　春宮宮道

八　ちにうあけもとうれはなるひわや公ふ朝うる春　藤原家

八　人のすはこれいるる世の別もうあるてのうるうは　藤原定家

九　わるもうしやいるるあうら家ねるるれたるもそ　藤原隆房

九　別てあれうれるつうれ桜衣うるうるあ　実宣実文　俊成

八　それを結わるもうに袖の別うれ公袖の別うれ袖の夜　北面

九　うるうんまるあうるとるうるのはそなるとうら　藤原家

十　人のまるこれいるる世のるるもうるるはうるうるう　法皇

十　わるるて公ふうるうに月のうるるの夜　後鳥羽院

六月惜別

暮秋惜別

離別

遠離別

近離別

親愛自然恋慕有情仍離別

出

寓居

月出山

曙月

桂月出山

入

寓入新草語

梅香入園

落花入簾

泉声入詹　安

重香入簾　廣徳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

低

柳潮伝

柳素水

禁裏柳素

禁中柳素

門前柳素

柳素つな

廬橋家

低

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十二

古舊

古渡流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の里人 [illegible]

古寒草

古渡衡

古渡雪

古松雨

古松

[illegible]

[illegible]

古巣雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊花遅開

[illegible]

早速

速

[illegible]

待早雪

[illegible]

早寒梅花

[illegible]

早涼

暁初早涼

[illegible]

早梅

年内早梅

歳暮早花

風雅

[illegible]

姫神

流水始凍　みるひさごにそそしはもとよりこのみのおけつきのむしろ　後拾遺院

氷始解　うらわかしはるかすみやこうちもけるそそくそそく　後撰院

花始開　きのもとにおとゝ新のたてはしろそふ山さくら　後撰二条

桜開盛　ちるさくらてまつすゝ八重咲けるなりわよなしてあもさくらん　新古今

氷始結　をしとわのうきねの夜よりはつ氷ゆんけるこのゆふ　後拾遺院

八十八夜　八十八夜ふるいさうふ宮ゆたわしてはつ氷りけ　後拾遺院

青和布　ちの行ゆくすゝのよのうきたにうをてやをうかせ　後拾遺院

山水始氷　ちの河の水上ゆるくしてこの夕　後拾遺院

谷水始氷　谷の水はの秋風ゆるくてはわよ小ゆるあしとそ　後拾遺院

初雪　なるゆ八春とあしとゆ八ゆくくこのまさ雪の上　後拾遺院

梅花初開　梅ゆこのゆくたにそくこの雪のよかくや雪春ゆ　後拾遺院

北年紅葉　谷はにのゆしもまこうしゆ白雲はのゆいはくこ紅葉　後拾遺院

初花　はゆ中にふゆくゆ一本にとゆるなとゆ　後拾遺院

郭花初開　月新のゆくふちゆるいゆのまに咲なくゆん庭の郭花　後拾遺院

開落初声　咲ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

初月而　二月初　月毎のゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

草花初開　ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

初鹿　しくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

菓初開　ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

初夏　行　ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

山路初雪　ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

姫

改日尋花　全一　白さくらまこゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

所花新云　ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ　後拾遺院

[illegible]

浅

[illegible]

深

[illegible]

[illegible]山寺にてよみ侍る　金三

山寺にてよみ侍る　前十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歸

宮帰谷　山人もとまるまじかりけるを、友なる人の所へ　順徳院

春きぬとゆめにもしらぬ谷の戸に　藤原定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昇

川漸昇　私のすれなるこをやのひとんあていそわいのそれ　貫之

漸昇月　いくはるきこのすまるなるこをやのこるこに　拾遺集

初昇月　冬来天　そのこの山れちちのきりをこのこ　女房

ひのそこに花ひらるこをこれ　[illegible]

除

[illegible]　さるこの池の宮のまるをこ　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

華花除川　ちの川きよ　れたる　華さま　こそわをもつる　ふる　やまん　大蓮の家
さこ　院　登　ひく　華の　ふる　華て　ふる　ふる　おの　松　風　月　風　蓮院
華　院　清　きよ　こ　院　さ　ひ　こ　れ　を　こ　ち　の　分　ロ
咲　て　は　の　ふ　や　松　風　の　咲　た　れ　ち　千　ち　白　華　ロ
毎日除華　華　の　花　咲　ま　き　い　ま　れ　せ　い　ま　の　松　て　こ　ん　蓮　華　蓮
名聚除川　月七　大井川　山　の　名　を　う　つ　て　こ　う　ん　の　原　て　立　け　ち　蓮　華　蓮
緑松除池　長家　こ　て　こ　う　の　ん　も　ま　ん　ち　ま　た　や　ま　ち　ま　の　千　年　を　東　こ　所
七

夏

送

見花送日　春　こ　に　ま　ま　と　花　を　こ　て　み　れ　ち　こ　に　知　ま　る　橘　為　道
紅葉送日　本　の　き　に　な　る　も　ゆ　く　る　の　ち　き　し　て　ま　て　ま　て　ま　い　ま　ま　た　こ　の　ち　ち　華　納　言　家
二　月　た　て　の　あ　れ　ま　し　こ　れ　の　ま　し　む　ん　わ　ち　こ　つ　わ　ち　き　こ　れ　の　ま　ち　は　行　政　朝　臣
七　初秋　ま　ち　ま　ま　ま

遠年

たるはりとうるてゝ[illegible]の[illegible]年のうらし法　冬[illegible]雅俊

百六
遠

松遠春雨

七夕遠秋

なを乃春ちくせの春の[illegible]れ面[illegible]下てもあるねる　順徳院

年月をいとゝのゝ[illegible]衣あつたてゝ人を天川せ　[illegible]

さゝなみ[illegible]年のわゝわ[illegible]こゝろ[illegible]をいちねゝと[illegible]や天川も　遠院[illegible]

[illegible]ゝこゝのこゝろのなとなゝとゝやゝふ星会の[illegible]　[illegible]

こゝ[illegible]と星のあつせのやをけや月のこゝ[illegible]て　[illegible]

秋人遠秋

[illegible]ゝこゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十五 隠情

[illegible]

百十六 老少

老少選事 [illegible]

[illegible]

百十七 編素

編素見月 [illegible]

百十八 遲速

花有遲速 [illegible]

[illegible]

百十九 従友

薄情従友 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百九三

憂喜

憂喜依人

[illegible]

憂喜同夢

[illegible]

百九四

視聽

秋視聽

[illegible]

百九五

親疎

賓人家花須不論貴賤与親疎

[illegible]

百九六

遠近

遠近郊花

[illegible]

遠近格門

[illegible]

遠近門

[illegible]

一百六十六

遠近

庫声を近

遠近

一百六十七

遠近

遠近

遠近

遠近

遠近

一百六十八

是非

陶清是非

一百六十九

色香

梅有色香

一百七十

白

梅の白

一百六十七

浅深

管絃

管絃　笛の音と松の下風に吹きて絃の声をつくし　順徳院

月夜管絃　雲ゐよりあはれ月のさえかはり松吹くねの風ぞ　後鳥羽院

一枝ヲ